# 平成２５年度　学校評価シート（高知県立日高養護学校）

平成２６年３月４日

## １　目指す学校像

・児童生徒が楽しく学べ、保護者が安心して子どもをあずけられる学校。
・組織としての明確な目標をすべての教職員が共有し、目標達成に向けて着実に前進する学校。

**評価の基準**
Ａ：設定した目標を十分達成できた。
Ｂ：設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。
Ｃ：設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。
Ｄ：設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

## ２　本年度の教育目標

・児童生徒一人一人の能力・適性等に応じた教育活動を充実する。
・児童生徒の自立する力をつけ、社会参加に向けての適応力を高める。
・家庭や地域、関係機関と連携し、安全で安心できる学校づくりを進める。

**評価者**
○ 地域の関係者及び保護者等

## ３　評　価

| 項　目 | 昨年度の課題 | 本年度の目標 | 目標達成のための手だて | 自己評価 | | 外部評価 | | 今後の課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校経営 | ○キャリア教育の視点で再構築する必要がある。 | ○学校評価の在り方を見直し、中期目標と年度ごとの重点目標に基づいた実施の仕方に改善する。 | ○開かれた学校づくり推進委員会を改編し学校評価の実施の仕方を改善する。<br>○教頭を中心として、学校組織マネジメントの視点で中期目標を策定する。 | ・開かれた学校づくりについては、委員の構成を学校評価の実施に向けた内容にした。<br>・中期目標策定委員会を立ち上げ本校の存在意義や行動指針についてまとめ、H26年～H28年までの年度ごとの重点目標を作成した。 | A | 目標達成に向けて具体的に取組んでおり、評価がやりやすくなった。<br>行動指針等文章化することは大切な事であり評価できる。<br>学校評価アンケートの結果が全体的に高い評価を受けている事に改めて感心する。<br>学校運営全体が整理され構造化されてきた。 | A | 教育課題が整理されたので、今年度策定された中期目標の達成に向けて、具体的な取組を行う。 |
| 校内組織 | ○校内組織の効果的な運営。<br>○緊急時のマニュアルの再検討。<br>○PTA活動の活性化。 | ○安定した学校組織の土台づくり。 | ○学校評価のシステムづくりをする。<br>○現在ある緊急時における対応マニュアルを再度検討し、全員に周知徹底する。<br>○PTA組織や、PTA行事活動の見直しをする。 | ・PTAの組織作りに向けて役員会を多く設定し、行事活動やPTA会則の見直しをおこなった。<br>・各分掌が校長ミッションに基づいて目標を立て、それぞれの部署がほぼ実現できた。<br>・緊急時における校内危機管理に対応する体制について検討している段階である。 | B | 一般的にPTA組織に入り込んでいくのは難しいが、連携を取り良い活動ができている。<br>「性」の問題について真剣な取り組みがされており今後連携を取りながら取り組んでいく必要がある。<br>着実な取組ができており、来年度に期待する。<br>「いじめ」問題に関しては目標やスローガンに留まるのではなく、行動に移し、成果を上げていく必要がある。 | B | 中期目標の達成に向けて教職員がそれぞれの役割を理解し、責任を持って着実に取組みを前進させる。<br>情報共有の校内体制づくりや、新設した組織体制を確実に機能させる。 |
| 教育活動 | ○校時表・授業時数の見直しと共に、教育課程の見直しをする必要がある。 | ○校時表等の見直しを契機として、教育課程の在り方を全校的に見直す。 | ○校時表の見直しをする検討委員会を設置する。<br>○各学部において校時表を見直すと共に、知的障害教育の基礎、基本をおさえた教育課程についてキャリア教育の視点で再構築する。 | ・校時表見直し検討委員会を立ち上げ検討した。課題であった全校統一したチャイムや、休憩時間10分間の確保など、実際に合致した内容となった。<br>・本校で策定した「キャリア発達段階表」を活用し、各学部が生活単元学習を中心に実践を発表し集録にまとめた。 | A | 創意工夫をした取組ができている。<br>取組の内容は十分評価できる。<br>今後、教育支援計画、個別指導計画を基に児童生徒の卒業後を意識した話し合いを充実させる必要がある。<br>障害福祉の制度や各種福祉サービスの内容等を教員がもう少し把握しておけば保護者とのやり取りがスムーズにいく場合も考えられる。 | A | 知的障害教育の専門性の向上、小・中・高・舎の一貫した指導、キャリア教育の充実など、26年度の重点目標の達成に取組む。 |